

キラリ★ 話題の「ひと」



まつざき
松崎 千恵子さん
(会沢町)

○プロフィール
葛生地区社会福祉協議会会長

地域により輝きを

葛 生地区の社会福祉協議会
は、28の町会、3千世帯で
構成されています。その協議会で
初の女性会長として選任されたの
が松崎さんです。

松崎さんは、それまで民生委員
の役職に携わる一方で、協議会の
副会長として長年活動してきまし
た。協議会では今年度の活動とし
て、①地域福祉活動支援事業②新
型コロナウイルス対策特別支援事
業③ふれあい会食会事業④住宅補
修事業⑤広報紙の発行⑥ひとりく
らしなどの高齢者の見守り事業⑦
障がい児・者ふれあい事業などを
予定しているとの事です。

松崎会長は、会沢コミュニティ
センターで毎週月曜日の午後、地
域の高齢者の方々を集め「おしゃ
べりの会」と称し、簡単な健康体
操（フレイル予防）や、時には料
理教室を開催して、皆さんで和気
あいあいとおしゃべりをして楽し
い時間を共に過ごしているそうで
す。参加者の方は、一様に口をそ
ろえて「この時間がとても楽しく
待ち遠しいです」と言っていました。
15年以上続いているこの活動

を通して松崎さんが感じた事は、
皆さんが元気にいてくれる事が何
よりとの事です。参加者の方々の
笑顔を拝見して、この『時』がい
かに貴重な時間なのか、痛感しま
した。運動をしている皆さんの顔
は輝いて見えました。

松崎さんは会長として、感染症
の終息が未だに見通せない中で今
後も、今までの活動を継続しつつ、
女性の視点でより一層踏み込んだ
サービスの提供や、地域が輝き、
皆さんに喜んで頂ける活動を実施
して行きたいと話してくれました。
色々な「福祉」で長年の実績を糧に、
今までとはひと味違う協議会を見
せてくれるでしょう。

(市民記者 葛貫郁子)



▲健康体操(フレイル予防)の様子

市長からのメッセージ

いよいよ今月は、いちご一会とちぎ国体（第77回
国民体育大会）・いちご一会とちぎ大会（第22回全
国障害者スポーツ大会）が県内各地で開催されます。
栃木県での国体開催は実に42年ぶりとなります。新
型コロナウイルス感染症の拡大により、国体開催は3
年ぶりとなり、本市では、ラグビーフットボール（全
種別）、バレーボール（成年男子）、そしてバレーボ
ール（精神障害の部）が正式種目として行われます。
参加される選手の皆様のご活躍を期待するとともに、両
大会の運営を支えてくださるスタッフの皆様に改めて
感謝を申し上げます。

今大会のスローガンは「夢を感動へ。感動を未来へ。」
です。感動を未来へ届けられるよう、佐野市一丸となっ
てとちぎ国体・とちぎ大会を盛り上げていきましょう。

金子 裕

とちぎ国体		ラグビーフットボール（全種別）	
日程	10月2日(日)～6日(木)	日程	10月7日(金)～10日(月・祝)
会場	清酒開華スタジアム(運動公園陸上競技場)、運動公園第1多目的球技場、ハートフル保険フィールド(運動公園第2多目的球技場)	会場	DAIKYOアリーナ佐野(アリーナたぬま)
観覧	事前申し込み不要/当日会場で受け付け	観覧	要事前申し込み/当日券なし
とちぎ大会		バレーボール（成年男子）	
日程	10月29日(土)～30日(日)	日程	10月29日(土)～30日(日)
会場	DAIKYOアリーナ佐野(アリーナたぬま)	会場	DAIKYOアリーナ佐野(アリーナたぬま)
観覧	県のとちぎ大会ホームページを確認	観覧	県のとちぎ大会ホームページを確認

今回の表紙 「こどもの国で梨狩り体験」 令和4年9月6日撮影

こどもの国で実施されている果実収穫体験移動教室の一環として、葛生小学校・葛生南小学校の2年生が梨狩りを体験しました。





小さな時間旅行を

郷 土資料保存三好館となっている建物は、明治44年に新築し三好尋常高等小学校として使われていました。市内で明治期に建てられた小学校の校舎はここだけになったそうです。

校舎の中に入ると、当時のままの木のぬくもりが感じられました。「暮らしと民具」「仕事と民具」「防災と民具」「交通・交易と民具」が展示されていました。今も使われているような食器、今と昔では形が変わったアイロンや湯たんぼ、今では使われなくなり昔の時代のドラマで見るとような道具、機械化される前の農機具や馬の道具など、町内から集められた貴重な郷土資料がありました。この三好館は、毎月第2・第4日曜日に開館していて、その日は近隣の方たちが交代で鍵を開ける当番になっているそうです。地域の方に支えられて大切に残されている三好館で昔の生活に思いをはせることができました。



▲木のぬくもりたっぷりの校舎の中



▲佐野かるたの一句

(市民記者 尾島民江)

花いっぱいでおもてなし

9 月13日(火)、市内にて花いっぱい運動が行われました。同運動は、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催にあたり、おもてなしの一環として県内全市町で行われるものです。佐野市では、仲町通り緑化愛護会の協力のもと、仲町通り既存のプランター72個にニチニチソウが植えられました。

お花が植えられたプランターは、42年前に開催された栃の葉国体のときに設置されたもので、地域の方に利用され、現在まで受け継がれてきました。当日は仲町通り緑化愛護会から約40人が参加し、最後に国体応援メッセージプレートをプランターへ設置しました。



▲花いっぱい運動の様子

佐野弁
ばんざい

子どもが物ほしやくにすねる(ん)を
ジユク(ジク)という

子どもは好き勝手に行動することがよくあります。さとしてそれに応じようとする様子もなく、いうことを聞かないことがあります。それどころか、生意気なことを言ったり態度をとったりすることさえあります。これを共通語では「小生意気」といいます。方言では、これに似た言動をイケコシヤクといいます。

「子どものくせに、イケコシヤクユーンジャネー(いうのではない)。黙ってな」

イケコシヤクは、10歳位までの児童に対していうことばです。まだ社会的な知識や経験が乏しいはずなのに、身分に不相応なことをいう行為をいいます。

コシヤクとは、漢字で「小癩」と書きます。そしてその内容は、ことばづかいや行動がごましゃくれていて、しかも生意気なことをいうなど腹立たしいことをいいます。さらにコシヤクには意味を強める語(接頭語)イケがついて、ごさかしいとか生意気だという意味を強めています。

子どもがあれこれ好き勝手なことをいったり、理屈に合わないようなことをいったりすることをイグサといいます。このイグサの意に似た方言にジユク(ジクとも)があります。ジユクは地域によって、ジユーク・ジユーカーのように伸ばして発音します。(イグサは「言い草」が変化したもので、ものの言い方という意味です。)

「いつまでもジユクいわねで、みんな外でアスンダ(遊んだ)方がヨカンベガネ(いいでしょう)」

(市民記者 森下喜一)

